

こんなことに配慮しましょう

発達障がいは、外見から障がいを判断するのが難しく、障がいを原因とするパニックなどについても「しつけができていない」などと誤解されがちです。また、読んだり書いたりはできるのに計算だけがひどく苦手であるなどの場合は、「やる気がない」と責められることもあります。

周囲が障がいについて知ることが、支援の第一歩になります。いろいろな経験や工夫、周囲の理解によって、不安や困難を減らすことが、能力を発揮していく力につながっていきます。コミュニケーションをとる際には、「ゆっくり」「短く」「具体的に」お願いします。また、注意などの際は「ダメ」「○○してはいけない」などのように、否定の形で言われると混乱することがあります。「□□してください」のように、してほしい行動を具体的に伝えるようにします。



話しかけるときは、ゆっくり短く分かりやすい言葉でお願いします。身振りや絵などで見て分かる情報があると伝わりやすいことが多いです。

あいまいな表現は苦手です。「ちょっと待ってください」ではなく「5分待ってください」のように具体的に伝えてください。



周囲の状況を理解したり、人の表情から気持ちを読み取ったりすることが苦手なので、初めての人に接した時には不安が大きくなります。一番大事なことは、「笑顔」です。安心感につながるような温かな笑顔で話しかけてください。



自分の行動についてチェックすることが苦手な人がいます。自分の行動に気付けるような言葉かけをお願いします。

音声コード

